

長岡京市日本中国友好協会創立 40 周年記念式典参加報告

見本重宏

10月6日、台風の影響が心配されましたが過ぎ去り、当会のイベントに毎回参加して頂く仁賀武会長(右写真)のお招きを受け出席しました。「人民の力でひらく日中友好—民を以って官を促し、官民補う」の合言葉で創設され、様々な活動に尽力した事により各級議員・友好関係者 150 名が参集し、参加者全員で厳しい日中関係の中で「四十にして惑わず」を確認する会でした。尚、中国総領事館から周明輝・劉馳領事が出席し、劉毅仁総領事の祝賀メッセージを代読されました。



記念講演では、仁賀会長の盟友元内閣官房長官の野中広務氏の「最近の日中問題について」を拝聴しました。本年 89 歳になるとのことですが、東アジアの平和を希求する鬼気迫る発信力があり、聴衆者に対し「今生の遺言」の言葉で終わりました。約 2 年半中断している日中両国の首脳会談を 11 月 APEC での実現を訴え、また安倍家父方祖父の安倍寛（軍部に反抗し「反東条」を貫いた気骨あるリベラル政治家）と母方祖父の岸信介（A級戦犯）を対比しながら、安倍首相の「戦後レジームからの脱却」は、憲法改正につながり憲法を無視した「集団的自衛権の行使容認」の閣議決定を行う事で、議会制民主主義の崩壊と喝破されました。更に尖閣問題については、日中国交回復交渉等の田中角栄氏から聞いた話を交え、胡錦濤前主席の再検討要請を無視した野田内閣の「尖閣国有化による現状変更」を断罪され、第三者機関による管理・開発を提言されました。このような凄い迫力のある講演会は初めてでした。



懇親会に移り、葉衛陽・さくら親子の琵琶演奏など華やいだ雰囲気です。歓談・名刺交換等が行われました。小説「翼よよみがえれ！」（新中国空軍建設に貢献した日本兵士の物語）を持参し、野中広務氏にお渡し、著者の意図を説明後、来週の中秋明月祭でお披露目を行う事も話をしました。一読していただき次回増刷時「推薦文」をお願いした所、野中先生より「この事は聞いた事がある。この時期に発刊する事は意義深い」との言葉も頂きました。



今後の民間友好交流では、日中間で色々なプロジェクト実現に向け価値観の多様性を認め、違いを乗り越え一致協力することで相互理解を生み、完成したときには喜びを分かち合い、一緒に互いの健闘を称え合い共に嬉し涙をながす、このような方向性が大事な事と思っています。近未来に実現する事を願い会場を後にしました。